

授 業 概 要

Syllabus

2019
【2 年次】

富良野看護専門学校

5. 統合分野

在宅看護論
在宅看護方法論 I
看護研究の基礎

教 科 目 名	在宅看護概論	単位数（時間数）	1 単位 （15 時間）
担 当 者	佐々木 政美	講義学年・学期	2 年生 前期

キーワード	在宅看護 在宅看護の場 在宅看護の対象 関係法規 関係職種 関係機関 介護保険法 社会資源 人権 権利保障 倫理
学習目標 (授業の 位置づけ)	<p>少子・高齢化、家族形態の変化、慢性病の増加など社会情勢の変化とともに、在宅看護に求められる社会のニーズは大きく変化をとげている。この単元ではその背景を理解するとともに、在宅看護の位置づけとその特徴を理解し、看護の展開に必要な基礎的な知識を理解する。既習の学習を想起しながら、看護の場と対象の拡がりに混乱することなく、看護者として対象の権利、倫理性を守ることの必要性と看護の役割を考える学習とする。人間の生活の場である地域を理解し、環境が人間の健康に及ぼす影響を考え人間理解を深めるとともに、看護が社会のニーズに対応しながら健康を支える存在であることを学ぶ。</p> <p>目的：在宅療養をしている人や家族を取り巻く社会状況およびニーズを理解し、在宅看護の役割と機能を理解する。</p> <p>目標：1. 在宅看護が必要とされる背景を社会情勢の変化とともに理解する。 2. 在宅看護の目的と特性を理解する。 3. 在宅における看護活動の特徴を理解する。 4. 訪問看護のしくみを理解する。 5. 在宅看護と関連する法規及び関係機関、関係職種を理解する。 6. 在宅療養者の権利保障を学び、看護の倫理的側面を理解する。</p>
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義 演習 ・ グループワーク
成績評価の方法	<p>学科試験</p> <p>提出物（課題・レポート等）を含めて評価します。</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 統合 「在宅看護論」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門1 「看護学概論」「臨床看護学総論」 医学書院</p> <p>国民衛生の動向 厚生統計協会</p>
メッセージ	<p>看護が求められる対象と場は社会のニーズとともに変化をとげています。看護が対象とする人間は健康である権利を持つとともに、疾病や障害を抱えながらも地域で生活することを基本とします。人間理解、環境の理解、健康や看護についての学びを深めるために、既習の学習と結びつけ整理していく学習姿勢を身につけていってください。</p>

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	1. 在宅看護の変遷と社会背景	1) 在宅看護の目的と特性 (1) 在宅看護の変遷 (2) 在宅看護の特徴 2) 在宅看護が必要とされる社会背景 (1) 社会の変化とニーズ (2) 超高齢社会の進展と地域包括ケア	佐々木 政美
2 3 (0.5)	2. 在宅医療、介護と制度	1) 在宅看護にかかわる制度 (1) 医療保険制度 (2) 介護保険制度 (3) 障害者総合支援法	佐々木 政美
4	3. 在宅看護の提供方法と訪問看護	1) 在宅看護の提供方法 (1) 生活の場に応じた看護の特徴 2) 訪問看護サービスの提供 (1) 訪問看護制度と特徴 (2) 訪問看護ステーションの理解	佐々木 政美
5	4. 在宅看護の活動と展開	1) 在宅看護の活動 (1) 対象者の特徴 (2) 活動の特徴 (3) 生活の中での安全管理 2) 在宅看護の役割と機能 (1) 療養の場の移行 (2) 医療機関との連携 (3) 施設との連携	佐々木 政美
6 7 (0.5)	5. 関係職種と社会資源	1) 在宅療養を支える制度と社会資源 (1) 社会資源とは (2) 在宅看護と社会資源、 2) 関係機関と関係職種 (1) 保健・医療・福祉サービス機関と職種 ＜地域：演習＞	佐々木 政美 保健センター
8	6. 在宅看護における権利保障	1) 自己決定と権利擁護 (1) 自己決定 (2) 成年後見制度 2) 在宅看護に求められる倫理	佐々木 政美
8	学科試験		

教 科 目 名	在宅看護方法論 I	単位数 (時間数)	2 単位 (45 時間)
担 当 者	佐々木 政美	講義学年・学期	2 年次 後期

キーワード	生活者 意思 (自己) 決定 家族 地域 価値観 セルフケア 観察 日常生活援助 医療的ケア ケアマネジメント 介護保険制度 連携 チームアプローチ
学習目標 (授業の 位置づけ)	<p>在宅看護においては乳幼児から高齢者まであらゆる年齢を対象とし、また、予防から死に至るまでのあらゆる健康段階にある人々を対象とする。その対象は家族のひとりとして生活する生活者であることが特徴となる。在宅看護の目的は地域で暮らす人々が、疾病や障害による困難や制約を受けながらもそれぞれの生活の中で、自分たちの持てる力を最大限に生かし、その人がその人らしく生活できるよう“生活”を支えることを目的とする。従って、看護は対象の意思決定を支えることを前提とし、対象の生活に応じた援助を提供することが求められる。生活という多様な場において看護を実践するためには、対象の住む地域や暮らしを捉える力と、対象の状態を総合的に捉える力が必要となる。この単元でも、看護実践の基本となる観察をベースに、安全・安楽を原則とする既習の看護技術を基盤とし、対象や提供の場に応じ創意工夫することを学ぶ。知識や技術を結び合わせ、発展させる学習の糸口としたい。</p> <p>目的： 在宅療養者と家族が地域で生活することを支えるための看護実践に必要な、基本的援助技術を学ぶ。</p> <p>目標： 1. 在宅における面接技術の基本、観察の視点が理解できる。 2. 在宅療養者の健康状態と日常生活のアセスメントができる。 3. 在宅看護に必要な日常生活の援助技術が理解できる。 4. 在宅において展開される医療技術とそれに伴う看護が理解できる。 5. 対象の生活や価値観を尊重した援助の方法について考えることができる。</p>
授業の形式	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を中心に、GW や演習を組み込んで展開します。 ・テキストのすべてを講義で取り上げることはできないので、自己学習による予習・復習がなされた前提で講義を進めます。
成績評価の方法	<p>学科試験</p> <p>レポート・演習課題など含めて評価を行う</p>
教科書・参考書	<p>系統看護学講座 統合 「在宅看護論」医学書院</p> <p>ナシグ・グラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版</p> <p>国民衛生の動向 厚生統計協会</p>

メッセージ	対象の生活の場に応じた看護を提供するための技術を学びます。基礎看護学や成人看護学・老年看護学・母性看護学・小児看護学・精神看護学で学んだ知識や技術が基盤となりますので、必ず該当する内容の復習を行い授業に臨んでください。 また、技術の提供に当たっては考え創意工夫する姿勢を身につけてほしいと思います。
-------	--

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
1	1. 在宅看護の基本と看護師の役割	1) 在宅看護の基本 2) 訪問の基本姿勢と面接技術 3) 在宅療養を支える基本技術 (1) 在宅療養環境の基本	佐々木 政美
2 3 4 5 6 (0.5)	2. 在宅における生活援助技術	1) 食生活への援助 (1) 在宅での食事援助の特徴 (2) アセスメントと援助 (3) 食事及び摂食障害時の援助 2) 排泄への援助 (1) 在宅での排泄行為の特徴 (2) 排泄のアセスメント (3) 排泄援助と自立への支援 (4) 排泄障害への援助 3) 移動・リハビリへの援助 (1) 在宅での移動・活動の特徴 (2) 移動、活動のアセスメント (3) 移動、活動への援助 (4) 在宅でのリハビリテーション 4) 清潔への援助 (1) 在宅での清潔・入浴の特徴 (2) 清潔のアセスメントと援助方法 (3) 清潔援助と社会資源の活用	佐々木 政美
7 8 (0.5)	3. 医療的なケアが伴う援助技術	1) 在宅での医療処置管理の援助 (1) 医療ケアの原理原則 (2) 在宅における感染管理 2) 在宅での薬物療法 (1) 在宅における薬物療法の意義 (2) 服薬への援助	佐々木 政美

回	授業主題	授 業 内 容	講 師
9 10 11 12 13 14	3. 医療的なケアが伴う 援助技術	3) 在宅経管栄養と在宅中心静脈栄養 4) 膀胱留置カテーテル・ストーマケア 5) CAPD 療法 6) 在宅酸素療法 7) 在宅人工呼吸療法 8) 褥瘡ケア	
15 16 17	4. 在宅看護におけるケ アマネジメント	1) ケアマネジメントとは 2) 社会資源の理解と活用 3) 介護保険制度におけるケアマネジメント 4) 地域包括ケアシステムにおける多職種連携	
18 19 20	5. 在宅看護での看護過 程の特徴	1) 在宅看護過程の特徴 2) 在宅看護過程の展開方法	佐々木 政美
21 22 23	6. 在宅療養者への生活 援助技術演習	事例課題 訪問看護の実際	佐々木 政美
	学科試験		

教 科 目 名	看護研究の基礎	単位数 (時間数)	1 単位 (15 時間)
担 当 者	後藤 里枝	講義学年・学期	2 年次 後期

キーワード	研究的態度 研究的思考 研究方法 研究テーマ 帰納的研究 演繹的研究 倫理的課題 文献 文献検索 一次資料 二次資料 研究と統計 データ 研究計画書 ケーススタディ 研究発表
学習目標 (授業の 位置づけ)	看護が人々の健康の維持・増進・回復とその絶えざるフィードバックによって成り立つものである限り、研究なしに看護は成り立っていきません。看護の質の向上のため、看護実践のために看護研究は必須のものです。専門職業人看護師として、生涯にわたり研究的態度をもち、看護の質の向上に寄与できるよう、看護研究の基礎的知識・方法を学びます。 目的：看護における研究の意義と研究の概要を学び、研究的態度の重要性について理解する。 目標 1. 研究の意義、概要を理解する。 2. 看護研究の特徴・意義、倫理的課題を理解する。 3. 研究における文献検索の重要性、方法を理解する。 4. 研究における統計の活用方法の基礎を理解できる。 5. ケーススタディの具体的な進め方を理解する。
授業の形式	講義 演習 グループワーク
成績評価の方法	3 年次のケーススタディへの取り組み、レポート内容・発表で評価
教科書・参考書	(教科書) 系統看護学講座 別巻 「看護情報学」 医学書院 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社 (参考書) 高橋 百合子監修 看護学生のためのケーススタディ メヂカルフレンド社 南 裕子 看護における研究 日本看護協会出版会 横山 美江他編 よくわかる 看護研究の進め方・まとめ方 医歯薬出版株式会社 黒田 裕子 黒田裕子の看護研究 step by step 第 4 版 学研

メッセージ	<p>「看護は専門職」です。専門職には、既存の知識・技術の最大限の活用と新たな知見と技術の発見が課せられています。そのため、専門職看護師を職業としていく私たちは学究的に物事を思考していかなければなりません。その思考そのものが研究的態度です。</p> <p>この授業では、研究の基礎を理解して看護研究の考え方、方法を学びます。授業は2年生で終了しますが、3年次にケーススタディとしてまとめ、発表をします。</p> <p>この授業、ケーススタディの取り組みを通して物事を深く探究することを体験し、自分の看護観を文章で表現してください。</p> <p>また、3、4回目の授業は統計的手法について学びます。1年次に履修した「情報科学」を復習して授業に臨んでください。</p>
-------	---

回	授業主題	授業内容	担当
1	看護研究の必要性	1. 研究、ケーススタディとは 2. 看護における研究の意義 3. 研究にいたる手順、テーマにたどり着くまで（テーマ決め、ことば調べ） 4. 事例研究とは	後藤 里枝
2	研究の方法	1. 研究のプロセスと具体的方法 2. 論文の構成 3. 研究デザイン	後藤 里枝
3 4	研究と統計	1. 研究と統計の関係 2. データの意味と集め方 3. 論文の作成方法 4. 研究の進め方 計画、調査方法、解析方法 5. 準備と実施 6. 集計と解析 7. 報告と活用	
5	研究計画書の書き方	1. 研究計画書とは 2. ケーススタディにおける計画書の意義 3. 3年次に取り組むケーススタディの計画書	後藤 里枝
6	文献検索	1. 文献検索の意義と活用方法 2. 文献検索の方法	後藤 里枝
7	研究における倫理的配慮	1. 倫理的配慮について	後藤 里枝
8	プレゼンテーションの進め方 (0.5h)	1. 研究発表の意義 2. プレゼンテーションの意義と方法	後藤 里枝